

平成 2 8 年 5 月 2 8 日

さいたま市議会高校生議会

議長 末 永 駿 也 様

提出者 さいたま市議会高校生議会市民生活委員会

委員長 小川 伸吾

副委員長 荒川 倖来

近藤 京佳

天川 大輔

内田 大

望月 優作

富永 梨月

森田 裕亮

岡村 準也

岡田 真由子

山野辺 輝

加藤 成美

石河 佑梨

議案の提出について

下記議案を、さいたま市議会高校生議会実施要領の規定により提出します。

記

委員会提出議案第 3 号

いまでも未来も住みやすいまち さいたま市を目指すための意見書

提 案 内 容

私たちは、市内の高等学校に通学する高校生の視点から、高校生活の多くを過ごす「さいたま市」の将来に向けて、市民生活委員会の所管事項に関し、以下の項目について提案するものです。

記

- 1 埼玉県内において本市の犯罪件数は上位である現状を鑑み、住みやすいまちを構築するためには、犯罪件数の減少を図る必要がある。犯罪防止の対策として、青色は人を落ち着かせるという鎮静効果と心理的に人を冷静にさせる効果があることから、青色防犯灯を設置すること。
- 2 本市では、「さいたま市路上喫煙及び空き缶等のポイ捨ての防止に関する条例」が施行されているが、依然としポイ捨てが横行している現状がある。ポイ捨ての撲滅はまちの美化につながり、まちの継続的な発展に寄与することから、特に人の往来が多い地域などに対しゴミ箱の新設及び増設すること。

また若者に対しゴミ箱自体を興味深くするため、コストを解消しつつ遊戯機能等の付加価値を兼ね備えたゴミ箱の設置も検討すること。

- 3 自転車事故防止の啓発については、交通安全教室のみならず、交通ルール、事故の悲惨さなどを定期的に学ぶ機会を設けることとし、課外授業により実施すること。
- 4 高等学校が隣接している地域においては、多くの生徒が自転車による登下校をしていることから、大通りを除く比較的交通量の少ない道路について、自転車事故の防止の観点から登下校時間に限り、自転車専用道路に指定すること。
- 5 地域が活性化するためには、幼児から老人まで繋がりをもつことが重要である。このため、コミュニティセンターにおいては、幅広い年齢層の方が参加可能となるイベントを定期的を開催するほか、このイベントの際に発生する使用料については減免措置を講じるなど、多くの市民が気兼ねなく利用できるようにすること。

以上、さいたま市議会高校生議会実施要領の規定により意見書を提出いたします。

平成28年5月28日提出